

## 平成25年度第4回社会福祉審議会議事録

- 日時：平成25年9月17日（火）午後6時30分から午後7時40分
- 場所：大和市保健福祉センター 5階 501会議室
- 参加：

〔出席委員〕 11名

小野委員長、山岸副委員長、大谷委員、金子委員、竹村委員、北林委員、桐原委員、  
和田委員、前川委員、阿部委員、柴田委員  
(欠席委員) 鈴木委員、町田委員、松井委員、高橋委員

### 【次第】

#### 1. 開会

#### 2. 議題

##### (1) 第4期地域福祉計画 策定状況について

① 地域福祉活動の現状と課題

資料1（当日配布）

② 個別目標について

資料2

#### 3. その他

##### (1) 今後のスケジュールについて

・第5回社会福祉審議会

10月16日（水）午後6時30分 大和市保健福祉センター501会議室

##### (2) その他

#### 4. 閉会

以下、要旨記録

### 1. 開会

事務局 平成25年度第4回社会福祉審議会を開催させていただきます。

### 2. 議題

#### (1) 第4期地域福祉計画 策定状況について

① 地域福祉活動の現状と課題 …説明省略

事務局 前回に続き「共助」の部分、助け合いの個別目標について、大和市の現状、また大和市の課題と、その背景になる部分をまとめた。

委員長 ただいまの事務局の説明で何か質問か意見はあるか。

委員 P1 近所づきあいについて地域差が出てきたというが、P9の高齢化率を見ると

和田とか福田北は高齢化率が高い傾向であることが影響しているのか。

事務局 市民アンケートから原因までは分析できなかったが、他の地区別の統計とクロスし分析していきたいが、高齢化率の影響は考えられると思っている。

委員 P9「災害時の避難で気になること」の地域別で、桜ヶ丘と和田地区が「近所に自分では安全に避難できないと思う人がいる」というのが多いが、どこに避難してよいのかわからないというのは、場所がないのか福祉的な心理的なものなのか、何故この地区が高くなっていると分析しているのか。

事務局 高齢化率が高いということで、自分の周りに高齢の方が多くいるので、そう感じているのかと思う。

委員 この地区は、区画整理がされていない昔からの未整備の地域で、公共の施設や公園などが皆無に近いので、物理的に足りないのかという感じがした。

物理的に桜ヶ丘地区には、自治会館、金比羅さんの神社はあるが、大きな公で集まれる場所はコミセンしかない。和田地区については、県のアパートやマンションや、渋谷小学校のあたりの県の施設があるあたりに何にもない。

昨日の雨でも境川の水位がかなり増えたが、どこにいったらよいのか困るだろうし、どの様に助けたらよいか困るだろう。

事務局 福祉の視点から、高齢化が原因で避難ができないというのが一番だと思っていたが、「団地に住んでいるので物理的に避難が難しい」「避難できる公共施設が近くにない」に関して、公共施設等地区別に出して分析してみたい。

委員 前回に比べると大変まとまっていて質問がしやすいと思う。

P7 5年前と比較した資料があるが、もし、資料があるのならば、近所づきあいなども5年間と比較できればもっとわかりやすいと思う。

委員 P1 20歳代の方のおつきあいが少ないと思うが、実際、何か起こった時に活躍してもらわなくてはいけない年代なので、その年代に対してどのような施策の働きかけをするのか案が考えられているのか。

20代の方の居住年数は意識の違いに大きく影響があるかと思う。元々住んで入る人なのか、地方から来た人なのかについて洗い出しをした方がよいと思った。

事務局 居住年数は今回の市民アンケートでとっていないのでわからない。

20代から30代、もしくはもっと下の世代の方たちが地域で活動に参加するためには、「支え合いの心を育てる」「普段関わりのもたない人との付き合いをつくる」ということが大事だと思っている。

委員 P2の近所づきあいの考え方の、若い人達が「日頃から何でも協力したい」と考えているのか「もういいよ」と考えているかで、投げかけ方の方針も変わってくるので、その辺の分析が必要かと思う。

事務局 近所づきあいの考え方についても次回までに分析してみたい。

委員 P9の気になること、「避難場所までの経路が分からない」が23%あるのは何か工夫しなくてはいけないと思う。今回の東日本大震災でも幼稚園バスが逆の方向に走ったということで裁判になっている事例がある。場所があっても経路の問題。

## ② 個別目標について …説明省略

委員 個別目標3 現状と課題の○の3つ目 精神障害に限定した理由は何かあるのか。

事務局 市内で集える場所として「コンパス」があり、そこは主に精神障害者の方が集まる場なので、ここに取り上げた。精神障害の方に限った施設ではなく他の障害の方にも心地よく使っていただけるような心配りもしていきたい。

委員 計画には載せないのか。

事務局 現在この中では精神障害者の方が使う居場所という記載に留めているが、実際の居場所の役割という意味では他の障害を持たれた方も集まるので、計画の位置づけというより通常の業務の運営の中で心地よく利用していただくという考えになる。

委員 精神障害の方の居場所が少ないのはわかるが、その他の障害の方の居場所が必ずしも充足しているわけではないので、一般の障害者への配慮もお願いしたい。

委員 個別目標1 「小さい頃からの福祉に関する生涯学習を通じて」とあるが、今やっていることを主体的にやっけていこうとしていくことか。

個別目標2 「主な取組み」のひとつ目。「保育や介護予防等のボランティア養成講座」をやるが、集まってくるのは市民のごく一部。広げるためには関心をもっていない方に講座を聴いてもらいたい。実際は、民生委員や市に関わりを持っている人ばかりでなかなか集まらないという苦労がある。その辺をどうするのか。担い手については、老老介護が問題で、昼間は地域の中に若い方がいない高齢化が進んでいる現状をどう捉えているのか。

個別目標3 「主な取組み」○の最後「市民の自主的な取組による居場所」は、言葉ではよいが実際の居場所をどう考えているのか。作る気があるのか。もう少し具体的な話が必要かと思う。

個別目標3 「主な取組み」のひとつ目 自治会と地区社協は任意団体であり、自ら作って自分たちで色々やろうとしている。民生委員は公の団体。地区社協は市社協の下部機関ではない。

自治会で自治会館を持っている所は少なく、殆どの自治会は自治会長宅に場所をおくような状態。そここのところを連携だとか話しかけてはいるが、自治会や地区社協など認知を高めてあげないと、モチベーションが落ちてしまう。地域に共助

でやれと言っても無理がある。その辺をどう考えておられるか。

今は自治会に入らなくても地域で困らずなんとか生活はできる。街灯は付けてくれるし、なんでもよくなってきている。

地区社協も若い人手がないのは同じ。地域で地区社協をやめてしまおうとしている団体も出てこようとしている。和田地区では体育振興会をやめている。

事務局 個別目標1 「現状と課題」○のふたつ目 「小さい頃からの福祉教育」は、学校でやっていることはもちろん、福祉推進委員会や市社協が補完をするような形で福祉教育を進めていく。

個別目標2 ボランティアの関心がある方だけが集まってしまうという悩みがあるが、現在、ボランティア養成講座が終わると自主的な活動を進めていくという中で、今後、関心の無い方にも取り組んでもらえるような方向になっている。

担い手で若い方という所は、前回、市民アンケートで20代から40代の方が支援を受けたいと言う人が多かった半面、育児の部分などで支援をしたいという方もいた。このような方にどのような関わりができるのか、次回、資料を整えて細かくご説明できればと思う。

個別目標3 居場所について、子育てサロン、地区社協がやられている高齢者ミニサロン、健康福祉総務課が関わっているチャオという市民の集まれる場があるが、市としての働きかけも重要だとは思いますが、地域の中で、熱意を持って自主的に動いてくれるキーパーソンのような方が必要になってくるなど、地域の応援団が必要という部分があるので、こちらは時間をかけながらタイミングを見計らって地域との関わりを持って行きたいと考えている。

基本目標4 地区社協の認知度は市社協と連携、相談して、市民の皆さんへの情報提供がどのようなものなのか、今後どのような情報提供をしていけばよいか考えたい。

委員 個別目標3 私の地区でやっているチャオやサロンボラなどの居場所の活動は引き継いでやっているが、大和市全体に広げるには、現在、地区社協に関わっている方のモチベーションを上げないといけない。

自治会館や公のボランティアセンターなど地域で集える場所を作らないと出来ない部分大きい。

委員 個別目標4 「主な取組み」 ○ふたつ目 各団体との連携について、災害時要支援で3者が強調されているが、個人情報の取り扱いの中で、自治会がまず一番頼りになるので連携しなくてはいけない立場である、その中で地区社協と同じ情報を共有することになると、その情報を元に地区社協がどのような支援制度に取り組んでいくのか疑問に感じている。

住民の方にとっては、民児協より自治会の認知度が高いので、災害となれば自治会が中心になって、そこに民生委員の個別情報を持ち寄りながら支援体制に取り組んでいくのが良いと思われる。

地区社協は色々な役員があるが、逆に充て職的なので、実際の災害の時に本当に動けるのかという疑問を感じる。やはり自治会に頼っていくようになると思うので、実際に足かせになって進行を妨げるようなことがないかどうか、地区社協の活動の内容を精査してはいかがかと思う。連携先とすれば、市、民児協がリーダーシップをとって下ろしていく形だが、実際は市社協と地区社協は全く関係がない状態である。地区社協への情報伝達方法、自治会や民生委員とどのような関係になるのか調べていただきたい。

個別目標 1 「現状と課題」○ひとつ目 「生活の中で困ったことがあれば近所の人に助けてほしいと考えている人が多くいる」資料 1 の困った時の近所の手伝いについて一番感じるのが、ゴミ出しもあるが、よく高齢者から相談を受けるのは資源ゴミについてである。資源ゴミは決められた所に持っていかなくては行けないため、新聞紙や段ボールなど処分できないまま放置され、家の中がゴミ屋敷になっている現実がある。具体的に資源ゴミの限定をして声かけをしてあげると高齢者は助かると思う。

事務局 地区社協と情報を共有した時の連携、今後の展開方法について地区社協の会議で災害時要支援者制度について報告しているところである。その中で、今回いただいた視点を含めて説明していきたいと思う。

高齢者との具体的な関わりに関しては、所管の課に確認し、市としてどのような対応ができるか聞き、個別に回答させていただく。

委員 個別目標 3 「主な取組み」最後の○「市民の自主的な取組みによる居場所づくり」について、実際の社協レベルでないところで介護予防サポーターの活動として、居場所、サロンを作っている。それをもう少し広げたいということで、要援護者のお隣同士、自治会での向こう三軒両隣、そこに若い方も巻き込んで地道な活動の中で居場所を作っている。実際そのようなグループへの支援が具体的にはどのようなことなのか、グループのサロンの場所を何かの形でサポートしてくれるのか、サロンをサポートする人達への支援なのかなど、具体的な事を聞きたい。

事務局 チャオを含め、現在、市内の中で自主的な居場所が増えてきている。

委員 チャオは個人の家だけなので狭く、それだけではだめで広げなくては行けないと思っている。チャオとは、個人が家庭を開放して「何かあったら来てください。お茶をのみなながら話をしましょう。」と個人宅、何軒かが提供している。大和市全市ではなく近所に限ってしまうもの。

事務局 チャオに関しての支援は、活動している運営者の方達の情報交換ができるような応援を考えている。直接的というよりは、間接的にその活動を応援できるような支援になってくるかと思う。

委員 わかりました。

委員 地区社協を市社協の下部機関になるようなことはできないか。市社協がこのようなことをしていますと地区社協の会長会に連絡をとってお願いをしているが、なかなかうまく繋がっていない。地区社協を公の組織にはできないだろうが、もう少し太いパイプになるようにできないか。

委員 地区社協を市社協の下部組織というのは、ちょっと難しいと思う。

委員 そうでないと地区社協がやめていってしまい、行政や市社協が全部やらなくてはいけなくなってしまう。そして、共助は自治会がやればよいとなってしまう。地区社協の役員も全部自治会から出しており、その意味では自治会の下部機関のようで、地区社協と自治会長と民生委員との連携はできている。自治会も任意団体で地区社協も任意団体である。

委員長 地区社協活動の推進というのは、市社協の使命である。そこは社協で考えてもらわなくてはいけない。

委員 本日は会長が欠席であるが、私も市社協の理事である。

会費を会員さんから集めて成り立っており、そのうちの何%かを地域に還元して、地区社協として地域の活動をしていただく組織。市社協の方向性をもう少しきっちりとして行かなくてはいけないのかと感じた。市社協も地域福祉活動計画を作っていくので、その中で考えていきたい。確かに地区社協の活動を担っている方々が高齢化しているというはあるし、これからどのようにつながっていくのかも大事だと思う。市社協の地域福祉活動計画はこれからの5年間分をこれから作る場所である。

委員長 相模原は22地区社協あるが、その殆どで市社協と連携して地区ボランティアグループが出来ており、活動部隊として動いてくれている。そういう仕組みを地区社協と市社協が作っていかないと、活動を担う人が高齢化してしまうことになりかねない。

委員 相模原は私も関わっているが、相模原は地域が広いので大和でいう支所のようなところに市社協がはいつてきているので、相模原はうまく動いている。

委員 相模原は南北に市社協があり人口も60万以上ある。地区社協がない市町村もある。

委員 地区社協の活動の中身の話になっているが、あくまでも災害時要援護者の取組を社協は絡めているという意味で、地区社協は、地域福祉の担い手として立派にサロンの開催、ボランティア活動、地域の見守り、個別訪問など十二分に地域福祉

の活動をしている。からめているのがいいのかどうかだけを疑問に感じている。

委員 個別目標3 先程の「精神障害者が」というところ、精神に固定していいのかについて。文章の中で、「現状と課題」はどういうことをいうのか、「取り組み方針」ではどういったことを言えばいいのか、「主な取り組み」では何を等、具体的なところをここに盛り込んでいいのかと疑問に思った。具体的な計画になれば、誰が誰にと出せばよく、そこだけ少し整理が必要かと感じた。同様に、個別目標2も「主な取り組み」の、一番下の○に「母子家庭相互の」と出ているが、母子家庭という言葉もちょっと整理された方がよいのではと思う。

委員 「一人親家庭」がよい。

個別目標1 「主な取り組み」○のふたつ目、私の事務所は元、障害者地域作業所だったが、今は大和市内には障害者地域作業所はないと思う。あるのは、障害福祉サービス事業所に皆変わっている。言葉が古いので直した方がよい

事務局 本日の所でお示ししたので、個別目標5から9との整合性をとった言葉遣いに整理をしたい。

委員 話は違うかもしれないが、福祉は生活だと思う。一番の目的は、特別に何かしてあげるというのも多くあるが、どちらかという和生活化、意識化から無意識化になるかと思う。市民生活の中にどうやって入り込んでいくかだと思う。

そうすると、生活の中もそうだが、学校教育に投げかける事も必要。道徳や小学校の社会科教育の中に、街にどういう福祉があるか学ぶ、実際に街でどのようなことがされていますかなど投げかけも出来る。イベントだけではなく、計画の中にそのような投げかけも必要なのではないかと思う。

委員長 個別目標4 「主な取り組み」最後の○ 「遺族福祉の向上」の「遺族」とは、どういう遺族のことか。

事務局 戦争でお亡くなりになられた方の遺族のことを言っている。

委員 遺族会の生活がどうのこうのはなくなってきているので、そこはもうよいと思う。

委員長 今、遺族会の会が成り立たなくなっている。

事務局 4つ目の○に関しては、遺族福祉に関わらず、明るい社会福祉の運動など、健康福祉総務課が事務局を担っている地域の活動団体を支援することで、地域の福祉を推進していきたいという例示として書いてある。

委員長 このような対応の仕方は難しいと思う。今、関心をいだかれているのは自死遺族へのケア。自殺予防対策と一緒にしている。そこは大事だが、どう取り上げるか難しい。もし、遺族福祉を取り上げるのなら、そちらにシフトした方が時代にあっているかもしれない。

委員 先ほどの個別目標3の精神障害者の問題は、安心して活動出来る場所を作るに知

的障害者も入れるのか。

事務局 こちらについては、この3つの項目立ての中でどう取り上げるか考える。

委員長 基本目標6から9との整合性を考えて決める。

委員 大和市にはコンパスの1カ所しかないという今の現状を取り上げている。

事務局 社会福祉審議会では、皆さんに熱心に御議論いただき意見をいただいている。次回は、今までの所の資料を全部合わせて意見をいただき議論いただきたい。

委員長 本日の議事は終了。

副委員長 あいさつ

今年、9月1日で関東大震災から90年を迎えるにあたり、色々な報道を聞いて感じたことだが、90年前の大震災の時は、地域福祉などなく自分が逃げる事だけで精一杯。有名な陸軍被服廠跡で4万人の方が亡くなるのだが、皆、自分の荷物を持って、その荷物に火が付いて丸ごと焼けてしまった。それに比べると、阪神淡路大震災や今回の東日本大震災では、地域福祉、地域の力が変わってきていると感じた。これは、地域が成熟している証拠だと思う。ですから大和の地域福祉計画も今までの積み重ねの上に作っていくものだが、方向性として、どこかに大和らしさができていくとよいと思う。ある程度形が決まってきているかと思われるが、このところ8月から毎月話ができるチャンス(審議会)があるので是非、良い計画を作っていきたい。

### 3. その他

#### (1) 今後のスケジュールについて

- ・第5回社会福祉審議会

10月16日(水) 午後6時30分 大和市保健福祉センター501会議室

### 4. 閉会

以 上